

Asia Indicators

発表日: 2023 年 5 月 12 日 (金)

韓国・失業率は再度低下も内容に不透明感 (Asia Weekly(5/8~5/12))

～労働市場への参入意欲低下が表面的な数字の改善に繋がるなど、内容は依然として厳しい～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹 (Tel: 050-5474-7495)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
5/8(月)	(台湾)4月輸出(前年比)	▲13.3%	▲18.1%	▲19.1%
	4月輸入(前年比)	▲20.2%	▲18.0%	▲20.1%
5/9(火)	(フィリピン)3月輸出(前年比)	▲9.1%	--	▲18.1%
	3月輸入(前年比)	▲2.7%	--	▲11.8%
	(中国)4月輸出(前年比)	+8.5%	+8.0%	+14.8%
	4月輸入(前年比)	▲7.9%	+0.0%	▲1.4%
	(マレーシア)3月鉱工業生産(前年比)	+3.1%	+0.6%	+3.5%
5/10(水)	(韓国)4月失業率(季調値)	2.6%	--	2.7%
5/11(木)	(中国)4月消費者物価(前年比)	+0.1%	+0.4%	+0.7%
	4月生産者物価(前年比)	▲3.6%	▲3.2%	▲2.5%
	(フィリピン)1-3月実質 GDP(前年比)	+6.4%	+6.1%	+7.1%
5/12(金)	(マレーシア)1-3月実質 GDP(前年比)	+5.6%	+4.8%	+7.1%

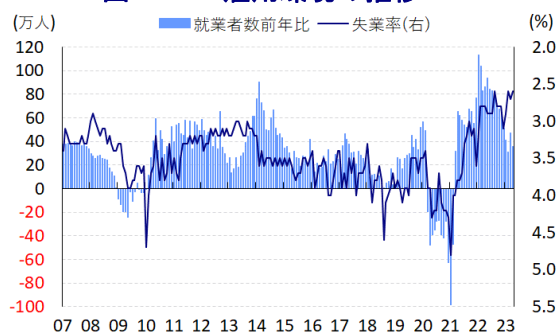
(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[韓国]～失業率は低下するも、若年層を中心に労働市場への参入意欲が後退するなど雇用環境は厳しい～

10日に発表された4月の失業率(季調値)は2.6%となり、前月(2.7%)から0.1pt改善している。失業者数は前月比▲2.3万人と前月(同+3.9万人)から2ヶ月ぶりの減少に転じているほか、中期的な基調も減少傾向で推移するなど調整が進んでいる。ただし、年代別では20代に加え、30代や40代など働き盛り世代を中心に減少している一方、60代以上の高齢層で拡大が続くなど対照的な動きがみられる。一方の雇用者数は前月比▲4.7万人と前月(同+9.3万人)から3ヶ月ぶりの減少に転じており、中期的な基調は拡大傾向が続くもそのペースは鈍化するなど頭打ちの兆しがうかがえる。年代別では、40代のほか、50代や60代以上など高齢層で拡大している一方、10代や20代など若年層に加えて30代でも減少しており、失業同様に年代ごとに異なる動きがみられる。雇用形態別でも正規雇用で底堅い動きがみられるものの、非正規雇用を中心に調整の動きが強まるなど雇用環境の厳しさが増している。なお、労働力人口は前月比▲0.7万人と前月(同+1.3万人)から3ヶ月ぶりの減少に転じており、年代別では40代や50代、60代以上の高齢層で拡大するなど労働市場への参入意欲が高い一方、10代や20代、30代などで軒並み減少する動きがみられるなど参入意欲が後退している様子がうかがえる。こうした動きを反映して労働参加率は64.3%と前月(64.5%)から▲0.2pt低下するなど、表面的には失業率が低下

しているものの、その内容は厳しい状況にあると捉えられる。10代と20代という若年層に限れば4月の失業率は5.5%と前月(6.2%)から大きく低下しているものの、労働力人口の減少を反映して労働参加率は49.0%と前月(49.8%)から大幅に低下しており、労働市場への参加意欲の低下が失業率の低下に繋がるなど雇用環境を巡る状況は厳しさを増している。

図1 KR 雇用環境の推移

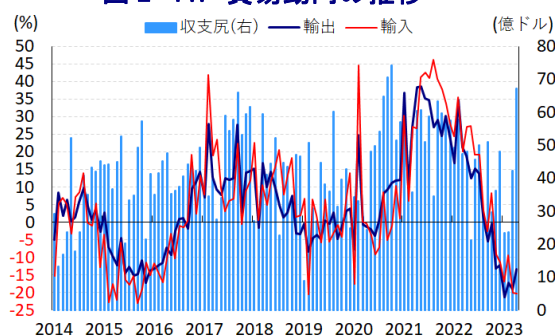


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[台湾]～輸出に底打ちの兆しも、輸出の弱さが輸入の重石となるなど外需を巡る状況は不透明な動きが続く～

8日に発表された4月の輸出額は前年同月比▲13.3%と8ヶ月連続で前年を下回る推移が続いているものの、前月(同▲19.1%)からマイナス幅は縮小している。前月比も+13.2%と前月(同▲2.8%)から3ヶ月ぶりの拡大に転じており、中期的な基調は減少傾向で推移するもマイナス幅は大きく縮小するなど頭打ちしてきた流れに底打ちの兆しがうかがえる。財別では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連の輸出に底打ち感が出ているほか、金属関連をはじめとする素材・部材関連の輸出も同様に底打ちするなど、輸出を巡る状況に変化の兆しがうかがえる。国・地域別では、米国向けや欧州向け、日本向けなど先進国向けを中心に底入れの動きがうかがえるほか、ASEANなどアジア新興国向けも底打ちする一方、最大の輸出相手である中国本土向けは依然力強さを欠く展開となるなど輸出の足かせとなる状況が続いている。一方の輸入額も前年同月比▲20.2%と6ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しており、前月(同▲20.1%)からわずかにマイナス幅が拡大している。前月比は+5.2%と前月(同▲10.1%)から3ヶ月ぶりの拡大に転じるも、中期的な基調は減少傾向で推移するなど頭打ちの展開が大きく変化する状況とはなっていない。機械製品関連のみならず、化学製品関連や金属関連など素材・部材に対する需要も弱含む展開が続いており、輸出を巡る不透明感が重石になっている。結果、貿易収支は+67.08億ドルと前月(+42.21億ドル)から黒字幅が拡大している。

図2 TW 貿易動向の推移

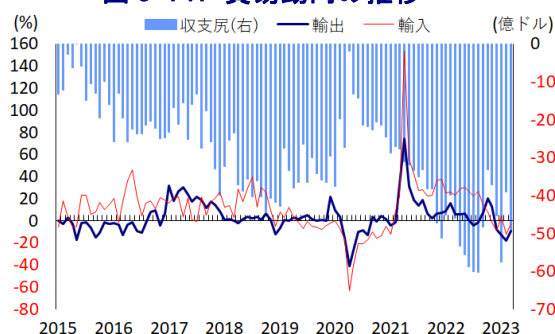


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[フィリピン]～欧米など主要国を中心とする世界経済の減速の動きが重石となり、輸出は頭打ちの動きが続く～

9日に発表された3月の輸出額は前年同月比▲9.1%と4ヶ月連続で前年を下回る伸びとなるも、前月(同▲18.1%)からマイナス幅は縮小している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は5ヶ月ぶりの拡大に転じているものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど頭打ちが続いた流れが変化するには至っていない。財別では、主力の輸出財である電子部品関連の輸出に底打ち感が出ていることが影響しているものの、その水準は依然として昨年後半を大きく下回る推移が続いている。国・地域別でも、中国本土向けやASEAN(東南アジア諸国連合)をはじめとするアジア新興国向け、日本向けなどに底打ち感が出ているものの、米国やEU(欧州連合)向けの弱さが重石となる展開が続いている。一方の輸入額は前年同月比▲2.7%と2ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移するも、前月(同▲11.8%)からマイナス幅は縮小している。前月比は2ヶ月ぶりの拡大に転じるなど一進一退の動きをみせているほか、中期的な基調は減少傾向で推移するもそのペースは大きく縮小するなど底打ちの兆しが見えてくる。電気機械関連のほか、機械製品関連、鉱物資源関連など幅広い財で輸入に底打ち感が出ていることが影響している。結果、貿易収支は▲49.28億ドルと前月(▲39.05億ドル)から赤字幅が拡大している。

図3 PH 貿易動向の推移



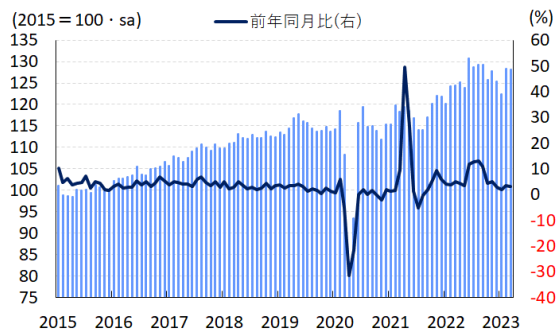
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[マレーシア]～頭打ちが続いた鉱業部門の生産に底打ちも、外需関連の製造業を中心に生産は一進一退～

9日に発表された3月の鉱工業生産は前年同月比+3.1%となり、前月(同+3.5%)から伸びが鈍化している。前月比も▲0.04%と前月(同+4.85%)に大きく上振れした反動も重なり2ヶ月ぶりの減少に転じており、中期的な基調もわずかに減少傾向で推移するなど力強さを欠く展開が続いている。頭打

ちの動きが続いた鉱業部門の生産に底打ち感が出ているものの、輸出財を中心とする製造業の生産に再び下押し圧力が掛かるなど弱含む動きがうかがえるなど、世界経済の減速懸念の高まりが生産活動の足かせとなる状況が続いている。

図4 MY 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以 上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。